



Newsletter

No.23(2009.8.20 発行)

JAICOWS 総会報告

日 時 : 2009年3月24日13時~14時

場 所 : 専修大学神田キャンパス8号館821教室

出 席 者 : 浅倉むつ子、岩井宜子、加賀谷淳子、神長百合子、袖井孝子、田原淳子、
直井道子、長野ひろ子、西川朱實、原ひろ子 (50音順・敬称略)

開会の辞 : ・原ひろ子会長より開会の辞があった。

・役員の手野ひろ子氏が司会に選出され、以下、手野氏により議事進行された。

議 事

【 審 議 事 項 】

1. 2008年度事業報告

岩井宜子事務局長より、2008年度の事業報告がなされた。

<事業内容>

- 1) 新規会員の勧誘
- 2) 総会の開催
- 3) 役員会の開催
- 4) 講演会の開催
- 5) ニュースレターの発行 (No.21、No.22)

2. 2008年度会計報告

岩井宜子事務局長より、2008年度の会計中間報告(2009年2月20日現在)がなされたが、その後ワールドプランニングより、2008年度の会計決算報告(2009年3月31日現在)を入手したので、最終報告のほうを下に掲載する。

2008年度会計決算報告

(2009年3月31日現在)

収入の部

(単位 ; 円)

勘定科目	①予算額	②決算額	差異(②-①)	備 考
繰越金	371,827	371,827	0	
会 費	625,000	640,000	15,000	121人分(83%)
利 子	200	596	396	
寄 付	100,000	0	△100,000	
収入合計	1,097,027	1,012,423	△84,604	

支出の部

(単位 ; 円)

勘定科目	①予算額	②決算額	差異(①-②)	備 考
通信費	30,000	24,440	5,560	要望書発送費, はがき代等
Newsletter 印刷費	170,000	109,200	34,070	No21, 22
Newsletter 発送費		26,730		
行事費	30,000	0	30,000	
会議費	10,000	24,100	△ 14,100	
事務局費	40,000	40,000	0	アルバイト代
交通費	10,000	0	10,000	
学会業務委託費	420,000	420,000	0	
予備費	387,027	37,695	349,332	封筒作成費, 振込手数料等
支出合計	1,097,027	682,165	414,862	
次年度繰越金		330,258		

2009年3月31日現在 会員数 145名

馬場房子先生に監査をしていただきましたのでご報告します。

3. 2009 年度会計予算について

岩井宜子事務局長より、2009 年度会計予算案が諮られ、審議の結果承認された（下記参照）。

2009 年度会計予算

収入の部

(単位 ; 円)

繰越金	231,045
会 費	670,000
利 子	300
その他	0
合 計	901,345

支出の部

(単位 ; 円)

通信費	30,000
Newsletter 印刷費・発送費 (2 回)	170,000
行事費	30,000
会議費	20,000
交通費	10,000
学会業務委託費	420,000
予備費	221,345
合 計	901,345

4. 2009 年度事業計画について

2009 年度事業計画案について審議され、下記内容を 2009 年度事業とすることが承認された。

<事業計画内容>

- 1) 総会の開催
- 2) 役員会の開催
- 3) 講演会の開催
- 4) ニュースレターの発行 (No.23、No.24)
- 5) 各種要望書の提出
 - (1) 「第 3 次男女共同参画基本計画」に対する要望書
 - (2) 「日本の展望」(日本学術会議)に対する要望書
 - (3) 第 4 次科学技術基本計画(平成 23 年度から)に対する要望書
- 6) 非常勤講師の科研費研究者番号取得に関する事例調査の実施継続

5. その他

下記の情報提供があった。

国連女性の地位委員会(第 54 期) 2010 年、北京+15)

Asian Pacific NGO Forum on Beijing

開催日: 10 月 21 日~25 日

場 所: ミリアム・カレッジ(フィリピン・ケソン市)

※ ご報告

1. 新入会員 内田伸子(お茶の水女子大学)
2. シンポジウムの後援 日本スポーツとジェンダー学会第 8 回大会を後援することとした。

日本学術会議「日本の展望」への要望書の提出について

日本学術会議では、日本の科学者コミュニティの代表機関として、日本の学術の課題と展望を長期的な視野から明らかにすべく「日本の展望—学術からの提言」をまとめることを目的に作業を進めているが、それに対して JAICOWS からも提言を出して、その中に織り込んでもらう活動をすべきではないかと考え、これを議題に 4 月 16 日に役員会を開催した。浅倉先生からの資料をたたき台にして、フリートーキングにより理解を深めたうえ、提案について話し合った。

その結果、論点と要望事項を原ひろ子先生がまとめて皆にメールし、これをもとに JAICOWS 会員にも広く意見をつのり、また、日本学術会議第 1 部長である広渡清吾先生を囲んで、要望書の提出についてご教示いただくこととした。

5 月 12 日には、広渡清吾起草委員長、大沢真理分科会委員長にお出でいただき、その結果、次のような要望書を提出した。

要 望 書

「日本の展望」起草委員長 広渡清吾殿

以下の項目を反映させていただきたく、意見を申し述べます。

(1) 男女研究者のワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活・趣味・地域生活・ボランティア活動など生活全般のバランス）を保障するための仕組みをつくるのが男女共同参画社会の実現のためにも重要である。

(2) 平成20年度『科学技術白書』（71ページ、第1-2-43図）の「女性研究者数の全体に占める割合（国際比較）」によると、日本は13.0%（2008年3月時点）で、28カ国中27番目と低い。この状況に関する改善策を講じることは喫緊の課題であり、これは、女性研究者の過度の海外流出にもよると思われることから、女性研究者の研究機会、就業機会の拡大を実現することが重要な課題である。

(3) 世界経済フォーラム（2008年11月）によると日本の指導的・管理的立場にいる女性の比率は、130ヶ国中、98位とまことに低い。この状況に関する改善策を講じることもまた、喫緊の課題である。

(4) 女性に対するあらゆる暴力（セクシュアル・ハラスメント、家庭内暴力、買春、人身取引、強姦、その他）を潜在的に許容・是認する日本の状況を克服し、あらゆる人の人権の尊重が、実質的に実現されることは、喫緊の課題である。

(5) 女子差別撤廃条約選択議定書の批准を含む、国際人権規約の日本国内での実施の実効性確保の仕組みを作ることは、重要な課題である。

日本学術会議会員	浅倉むつ子	同	連携会員	原 ひろ子
同 連携会員	岩井 宜子	同	連携会員	長野ひろ子
同 連携会員	直井 道子	同	連携会員	神長百合子
同 連携会員	広瀬 崇子	同	連携会員	田原 淳子
同 連携会員	山下 泰子			

女性科学者のインタビュー・リレー 〔7〕

猿橋勝子という生き方

今回は新刊図書 「猿橋勝子という生き方」（米沢富美子著 岩波科学ライブラリー157）を岩波書店と米沢先生の許可を得て要約したものをお届けします。

米沢富美子は猿橋賞の第4回（1984年）受賞者。専門は理論物理学で京都大学理学部卒業。日本物理学会会長（第4回、1996-97）を務めた。現在は慶應義塾大学名誉教授。

1. 猿橋勝子と日本学術会議

JAICOWS 創設に尽力した猿橋勝子は、日本学術会議第 12 期（1981-84）の会員である。女性として初めて会員となった。それまで、「学者の国会」とも呼ばれていた日本学術会議は、3 年ごとに会員選挙を行ない、有権者登録をしてある 22 万人の郵便投票によって選出を行なったが当選者全員が男性であった。

というのも、1949 年に日本学士院に代わって設立されて以来、30 年余も女性が立候補したことはなかったからである。有権者総数に対する女性の割合が 3%程度の時に、猿橋は立候補した。これを助けるために恩師の三宅康雄が尽力した。

1980 年 11 月、彼女は当選した。全会員 210 名中で、たった 1 名の女性だった。任期は 1981 年から 3 年間であった。日本学術会議にも女性会員の声が届けられるようになった。

彼女が会員として当選するには理由があった。すでに国際的な研究者として広く認められていたからである。すなわち、ビキニ水爆実験における日米の科学者の戦いにおいて、まぎれもなく研究上の実績を挙げて勝利していたからである。

2. 研究内容

第二次世界大戦終結の 9 年後、米ソ冷戦の最中、1954 年 3 月 1 日に太平洋上マーシャル諸島においてアメリカは水爆実験を行なった。不運なことに、爆心地から 160 キロ東方に居た日本漁船が被爆した。第五福竜丸である。この船は 3 月 14 日に焼津漁港に帰船。港にいた当直の医師は原爆症と判定し、重傷者を東大病院に搬送した。厚生省は調査団（医師を含む）を焼津に派遣。多量の放射能が患者、漁船、漁具、自宅から検出されて驚いた。これがビキニ海域における「死の灰」汚染である。

すでに米国占領から主権を回復していたにもかかわらず、日本に対して当時の米国は強権をもって介入してきた。船ごと米国に持ち去ろうとした。しかし広島・長崎の被爆から 9 年を経て、日本は原爆症医療や放射能測定研究において飛躍的な進化を遂げていた。第五福竜丸の船員は甲板に雪のように降り積もった「死の灰」を、わずかながら袋に入れて日本に持ち帰った。そのわずかな白い灰が、この事件の物的証拠として、日本が受けた被害の証拠として「ものを言う時」がきた。

白い灰はケシ粒（芥子の花の種子）ほどの小さなものだった。放射能分析が木村健二郎、南英一教授によってラジウムの 1 倍半もあることが確認されたが、白い灰という物質は何なのか。その正体・素性は全く分からなかった。その上、化学分析に使用できる量はわずか数粒という微量なものであったのである。

南英一は微量分析について、すでに実力を認めていた猿橋勝子（当時 34 才）を訪ねた。その時すでに猿橋は気象研究所において「極微量拡散分析装置」を開発していた。数粒の白い灰は手のひらに乗ってしまうくらい小さい測定器で正確に分析された。

測定結果では炭酸カルシウムの含有量が 11.6%、「サンゴ」の粉末であることが判明した。本来のサンゴの炭酸カルシウムの含有量は 89.5%であるから、水爆によって瞬時に激減したと考えられる。すなわち爆心地において、水爆はビキニのサンゴ礁をなぎ倒し、多量の硬いサンゴをケシ粒くらいの小さな粉末に破壊し尽し、さらに富士山の 10 倍の高さの上空へと巻き上げたのである。そして、広い海域に白い灰のような粉として降らせ、海を放射能で汚染した。猿橋の測定によってこれらの結果が明らかにされた。やがてこれは、日本分析化学会で公表された。

3. 生い立ちと研究生活

猿橋勝子は 1920 年（大正 9 年）に東京の芝白金に生まれ、両親と兄の 4 人家族であった。小学生時代から、窓ガラス越しに降る雨をながめて「雨はなぜ降るのかしら？」と考え込むような疑問好きの少女だったという。その後、府立第六高等女学校（現在の三田高校）に学び、スポーツ好きの学生時代を送った。

卒業して生命保険会社に就職したが、進学の思い捨てがたく東京の女子医大（現在の東京女子医科大学）を目

指す。しかし校長の吉岡弥生の人格に失望して進路を変更することになった。1941年に帝国女子理学専門学校（現在の東邦大学理学部）に入学して物理化学研究室に所属し、三宅康雄に師事した。これが猿橋の研究者としてのその後を方向づけた。

卒業学年のときに気象研究所に嘱託として就職することが内定した。物理の授業中に愛国主義者の教授から「このクラスには、戦争という非常時に中央气象台などという、軍に直接関係ないところに就職する非国民が居る」と罵られたりもした。1947年に猿橋は気象研究所で正規の研究官になり、霧やオゾン層の解析に取り組むようになった。「大気オゾン層の形成に関する光化学的理論」1949年、「大気オゾンの年変化と子午線分布に関する理論」1951年ほかの論文を公表した。

1950年から猿橋は海洋における炭酸物質の研究を始め、やがて自ら「微量拡散分析装置」を開発した。これは当時としては、世界最強の微量分析装置といわれた。また水中の炭酸物質の行動を調べるために各種炭酸の存在比を求めた。

この研究の成果は1955年に「サルハシの表」として国際的な評価を得ることになる。さらに発展させて「天然水中の炭酸物質の挙動」と題する学位論文にまとめ、1957年に東京大学から理学博士の学位を授与された。37才の時であった。

4. 猿橋賞とJAICOWS

猿橋は気象研究所での仕事を全うして1980年に定年退官した。記念パーティの祝金は500万円にものぼった。

これを創設の基金として「女性科学者に明るい未来をの会」を立ち上げた。この会の事業として「猿橋賞」が50才未満の自然科学分野で優れた研究業績を挙げた女性科学者に贈られることになった。副賞は30万円であった。

さらに1990年には私財1500万円を投入して現在までに28名の女性科学者たちが受賞。著者の米沢富美子ほかの受賞者たちはそれぞれの学術分野で女性の存在感をアピールした。

女性科学者を取り巻く困難な環境にも負けず、猿橋勝子はつねにその育成に取り組み、JAICOWS創設の先達となった。JAICOWSが主催したシンポジウムにも力を尽した。

彼女はのちに「猿橋賞の受賞者の使命は、それぞれの研究場所で成果を挙げること」「科学者は同時に哲学者でなければならない」と言いながら2007年に永眠した。功罪をあわせ持つ両刃の剣である科学に対して警鐘をならし続けたのである。

（國枝たか子が要約しました。）

（この号は、東京学芸大学の直井が係りでした。）

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8
専修大学法科大学院 岩井宜子
Tel 03-3265-6917 Fax 03-3265-6962（研究室直通）
E-mail：ths0494@isc.senshu-u.ac.jp
http://jaicows.fc2web.com/

事務センター：〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-7-2 大橋ビル
株式会社ワールドプランニング
Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325
E-mail：world@med.email.ne.jp

郵便振替 口座番号 00100-8-542793